

## 第44回評価監視委員会の開催について

第44回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日及び場所	平成26年10月28日(火) 15:00～17:00 建設物価調査会会議室	
出席委員 (五十音順)	木下誠也(日本大学生産工学部土木工学科 教授) 佐藤 淳(公認会計士) 佐野 洋(元 会計検査院 事務総長官房審議官) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会専務理事)) 幕 亮二((株)三菱総合研究所 社会公共マネジメント研究本部)	
審議案件	案 件	備 考
	委員長選出	評価監視委員会規則に従い、委員の互選により寺川委員が委員長に選出された。また、委員長の指名により木下委員が委員長代理に選出された。
	(定期調査) コラム(電縫管 BCR295) 東京地区	「建設物価」平成26年11月号44頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) らせん案内路式ドロップシャフト 広島県広島市	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について コラム（電縫管 BCR295）（東京地区）</p> <p>○ 平成24年度末から平成25年末の市況動向には、コラムはメーカー間の競争が激しく横ばいで推移とあるが、電炉メーカーと高炉メーカーの構造的なものか。</p> <p>○ 鋼材の商流に「ひも付き」というのがあるが、コラムにもあるか。</p> <p>○ 高炉メーカーが安値で攻勢をかけている事案はあるか。</p> <p>○ 掲載価格を見ると、地域によって価格差があるが、これは製造工場が近くでないことによる運賃差とみてよいのか。</p> <p>○ 問屋からも調査を行っているが、聞いているのは店売り価格でよいか。</p> <p>○ 伝票類で確認しているわけではなく、申告ベースでの調査だと調査先に口裏を合されるようなことはないか。</p> <p>○ 調査先の特約店4社でどのくらいのシェアになるのか。</p> <p>○ コラムの価格調査は毎月行っているのか。</p> <p>○ 調査先の特約店4社で50%以上のシェアとの回答だったが、それ以外の特約店はシェアが低く、信頼性も低いということか。</p> <p>○ 会社によって取り扱う品種について強い部分、弱い部分というものはあるか。</p> <p>○ 掲載価格はシェアが大きい特約店のA社で決まるのではないのか。</p>	<p>○ 高炉メーカー系列の特約店間の販売競争が激しくなったことによる。</p> <p>○ コラムは「ひも付き」でなく、「店売り」が中心になっている。</p> <p>○ 高炉メーカーに限らず、各メーカーがそれぞれシェアを確保しようとする動きがある。</p> <p>○ 需給動向や特約店の販売姿勢等によって価格差が生じるが運賃差も要因の一つではある。</p> <p>○ 問屋は最終的にどういう価格で需要家と取引がされているのかを把握しており、特約店から需要家への取引価格を聞いている。</p> <p>○ 信頼できる調査先を継続的に調査しているのでそのようなことはない判断している。</p> <p>○ 統計的な資料はないが、ヒアリングによる確認で50%以上は確保できると聞いている。</p> <p>○ コラムはA資材のため、毎月調査を行っている。</p> <p>○ そういうわけではなく、調査先との信頼関係を重視している。この4社とは過去から調査先として良好な関係を続けていることによる。</p> <p>○ 需要家との継続的な付き合いのなかで強い部分、弱い部分というのが生じてくる。</p> <p>○ シェアで考えればそうなるが、1社で決まるというわけではない。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について</p> <p>らせん案内路式ドロップシャフト（広島県広島市）</p> <p>○ 新しい仕組みのようだが、海外ではなく日本で始まったものか。</p> <p>○ 施工実績としてはどのくらいあるのか。</p> <p>○ この資材はどのようなところで使用されているのか。</p> <p>○ 高落差が10m以上というのはとてつもなく落差があるということか。</p> <p>○ この資材は分流式下水道の雨水配管か。</p> <p>○ 汚水で 사용되는場合はどのような場合があるのか。</p> <p>○ 特許権があってA社以外の他社は製造できないのか。</p> <p>○ 多段方式とドロップシャフトでは現状はどちらが多いのか。</p> <p>○ 最近発注されるものは、ほとんどがドロップシャフトで指定されているのか。</p> <p>○ 調査先に見積りで聞いた場合、ベース価格で答えてくれるのか、それともある程度値引きをすることを前提に答えてくれるのか。</p> <p>○ 当面はこの商品に代わる新しい技術や商品が開発されないと競合するのは難しいということか。</p>	<p>○ 日本のA社とB機構により共同開発されたものである。</p> <p>○ さほど新しい工法でもないので実績は結構ある。東京、名古屋、大阪、福岡など全国で施工されている。</p> <p>○ 高落差マンホールを主体として、水撃が高落差になると強くなるため、水流を安定した流量で運ぶことを目的としている。</p> <p>○ 比較的落差がある方である。</p> <p>○ 雨水もしくは汚水で使用されている。</p> <p>○ 口径が小さい場合に使用される。元々は汚水で使用が始まったが、近年では雨水が中心になっている。</p> <p>○ メーカーとしてはA社のみ。材料のFRPM管を製造していないと難しい。</p> <p>○ 発注としてはドロップシャフトの方が多い。</p> <p>○ 競合品がある。マンホール内部に直接らせん形状の水路を設けた商品がある。コンクリート製で安価ではあるが、B機構との共同開発商品ではない。</p> <p>○ ある程度の値引きがあることを前提にしている。</p> <p>○ 過去には塩ビ製やステンレス製での製品化を試みたメーカーもあったようだが、耐久性であつたり高価になり過ぎたりしたため、この商品に収束していったようである。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成27年2月下旬に開催予定。</p>	